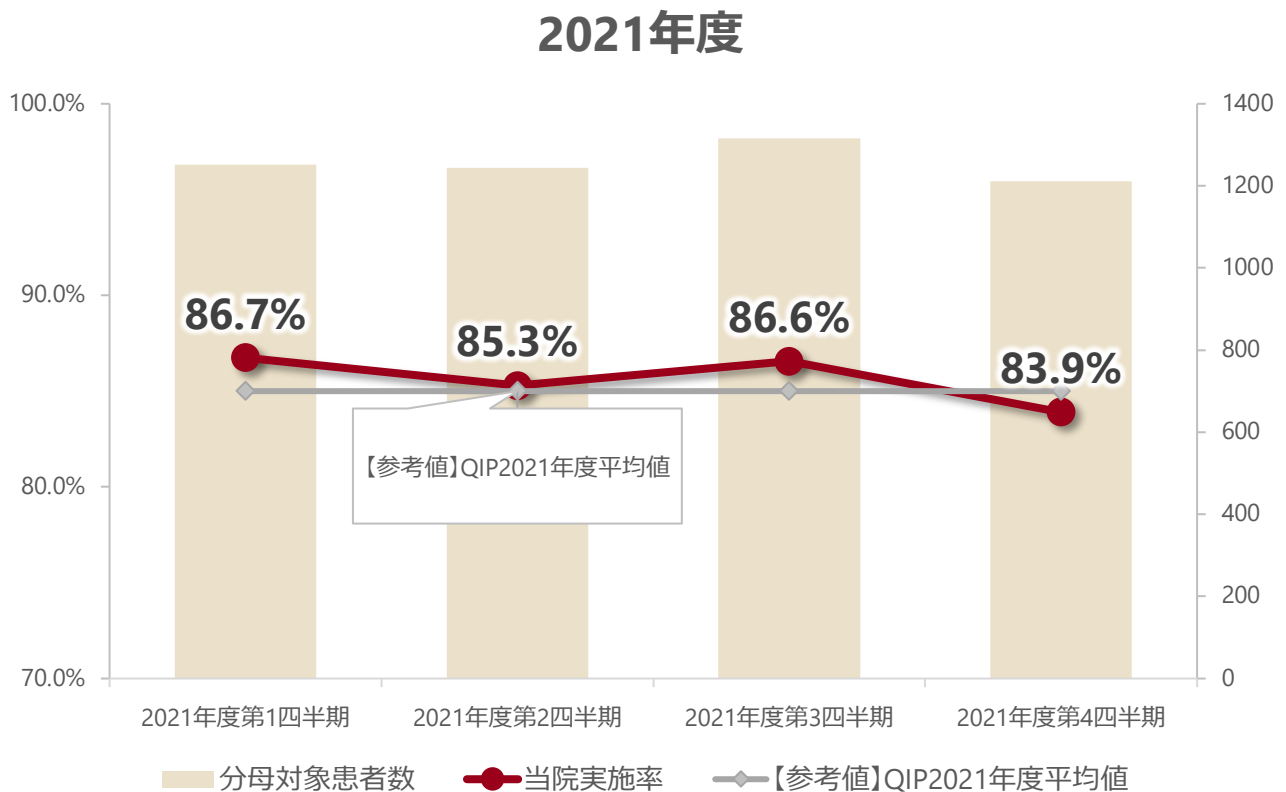


リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者 の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率



指標の意義・目的

肺血栓塞栓症／深部静脈血栓症(静脈血栓塞栓症)は突然死を引き起こす可能性のある極めて重篤な疾患で、しばしば大きな手術後や長期臥床の際に起こります。この予防方法には弾性ストッキングの着用や間歇的空気圧迫装置の使用、抗凝固薬療法があり、リスクレベルに応じて単独あるいは併用が推奨されています。周術期の肺血栓塞栓症の予防行為の実施は、急性肺血栓塞栓症の発生率を下げるにつながると考えられており、ガイドラインに沿った診療プロセスが構築されているかの指標となります。

算出定義

分子： 分母のうち、肺血栓塞栓症の予防対策が実施された患者数

分母： 肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数

参考

1. 日本循環器学会,肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症の診断、治療、予防に関するガイドライン（2017 年改訂版）